

プレキャスト高潮堤防護岸工法 [NETIS] CB-100008-A

福岡 熊本 佐賀 長崎 大分 宮崎 鹿児島 沖縄

高潮堤防用型枠工法



特長

コンクリート埋設型枠工法

■製品を敷設後、現地でのコンクリート打設により、現場打ちと同様の仕様・性能を確保し、波返工・基礎工及び被覆工の構築が図れるコンクリート埋設型枠工法です。

工期短縮

■止水板の設置を容易にし、型枠組立・撤去が削減できるため、工期短縮が図れます。

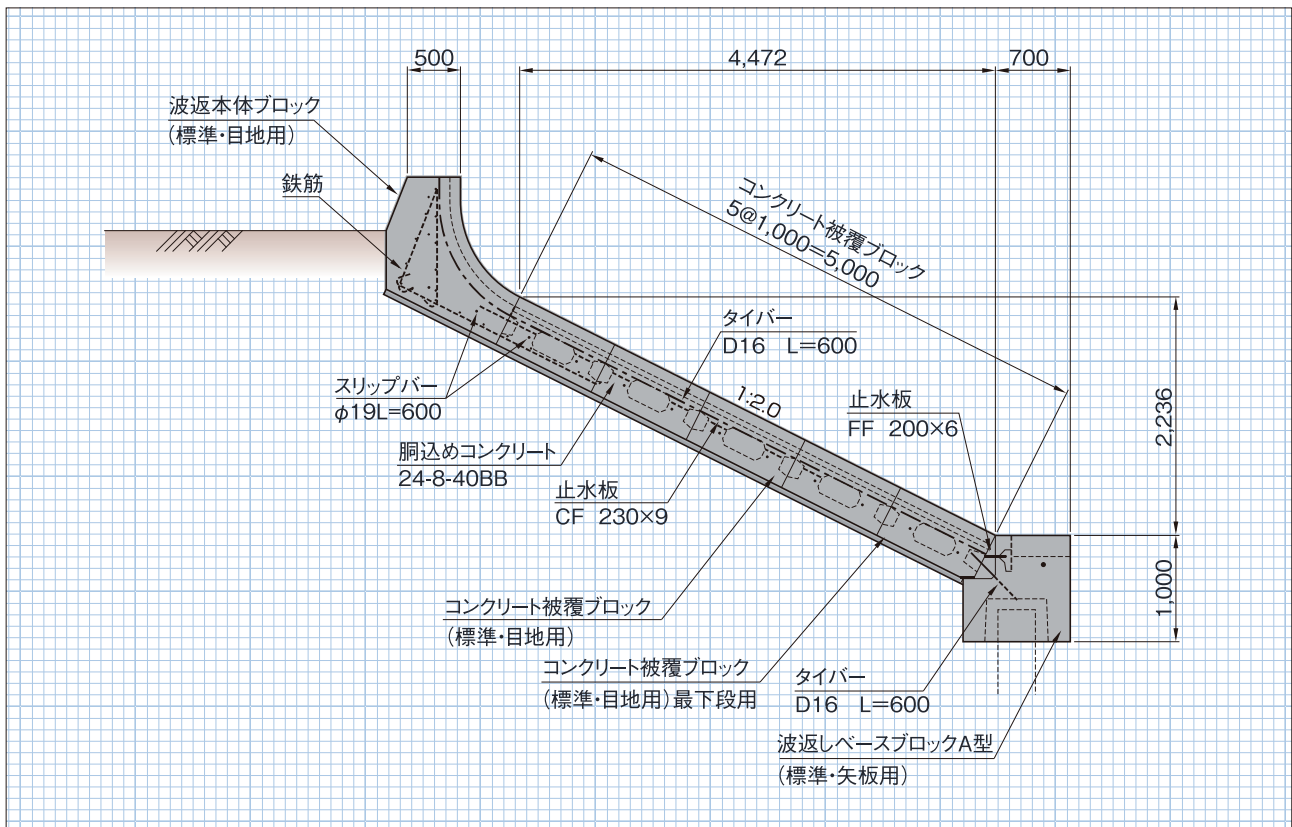
省人化

■波返工曲面部の円形型枠等の熟練作業が不要となり、機械化施工により省人化が図れます。

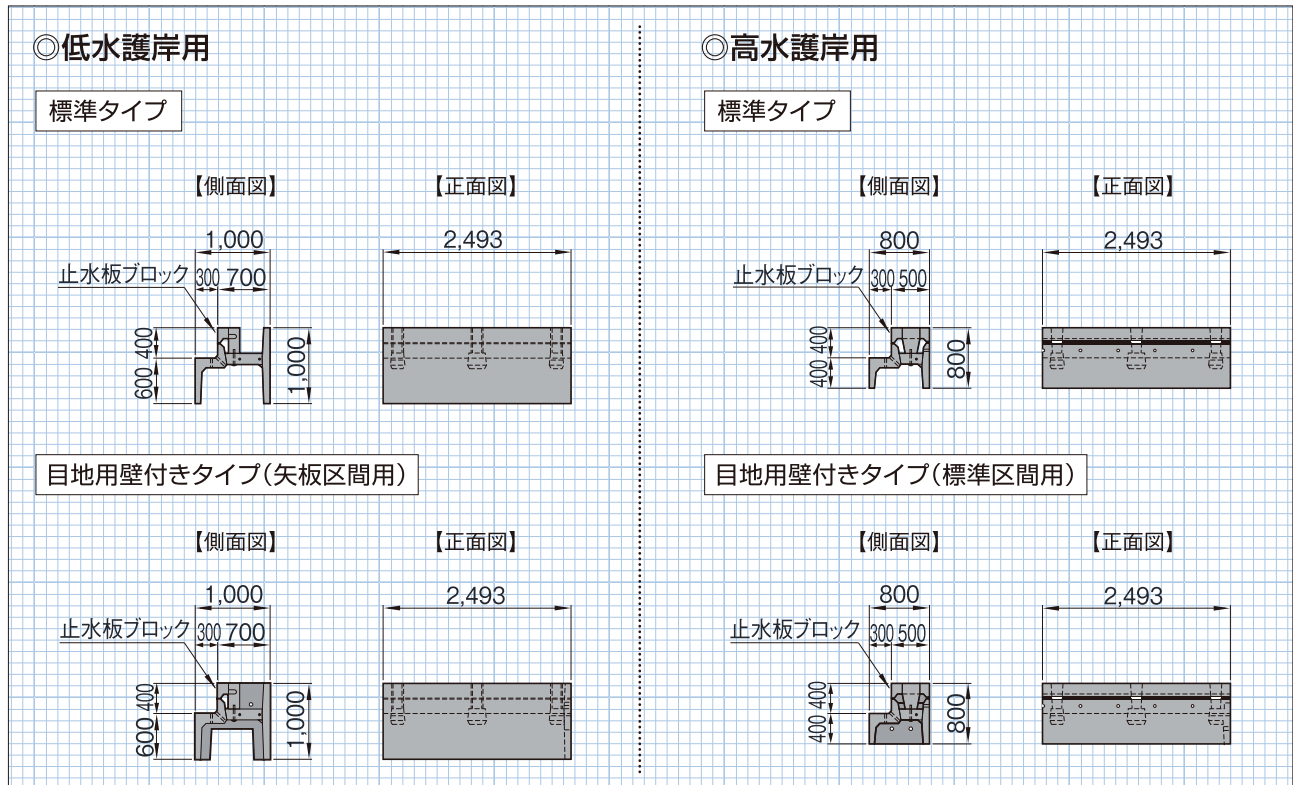
省資源化

■型枠を削減できるため、省資源化に貢献できます。

標準構造図(参考例)



■形状・寸法(波返しベースブロック)

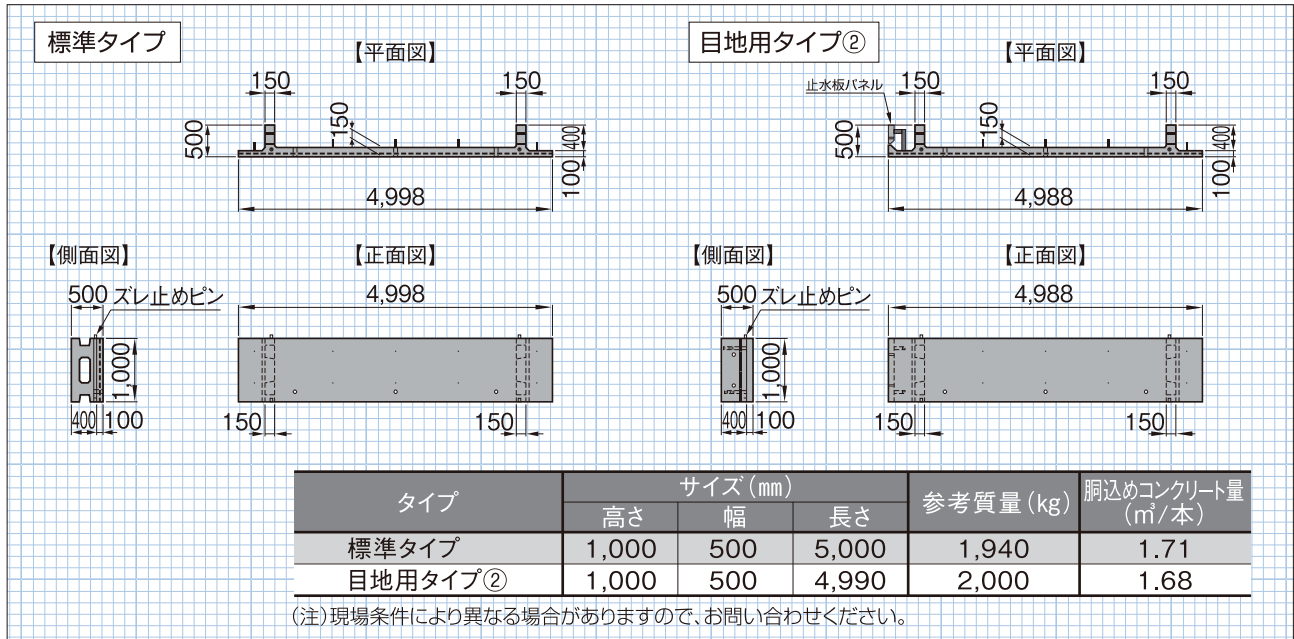


適用場所	タイプ	サイズ (mm)			参考質量 (kg)	中詰めコンクリート量 (m ³ /本)
		高さ	幅	長さ		
低水護岸用	標準タイプ	1,000	1,000	2,495	1,500	1.56
低水護岸用	目地用壁付きタイプ(矢板区間用)	1,000	1,000	2,495	1,570	1.53
高水護岸用	標準タイプ	800	800	2,495	1,280	0.76
高水護岸用	目地用壁付きタイプ(標準区間用)	800	800	2,495	1,320	0.74

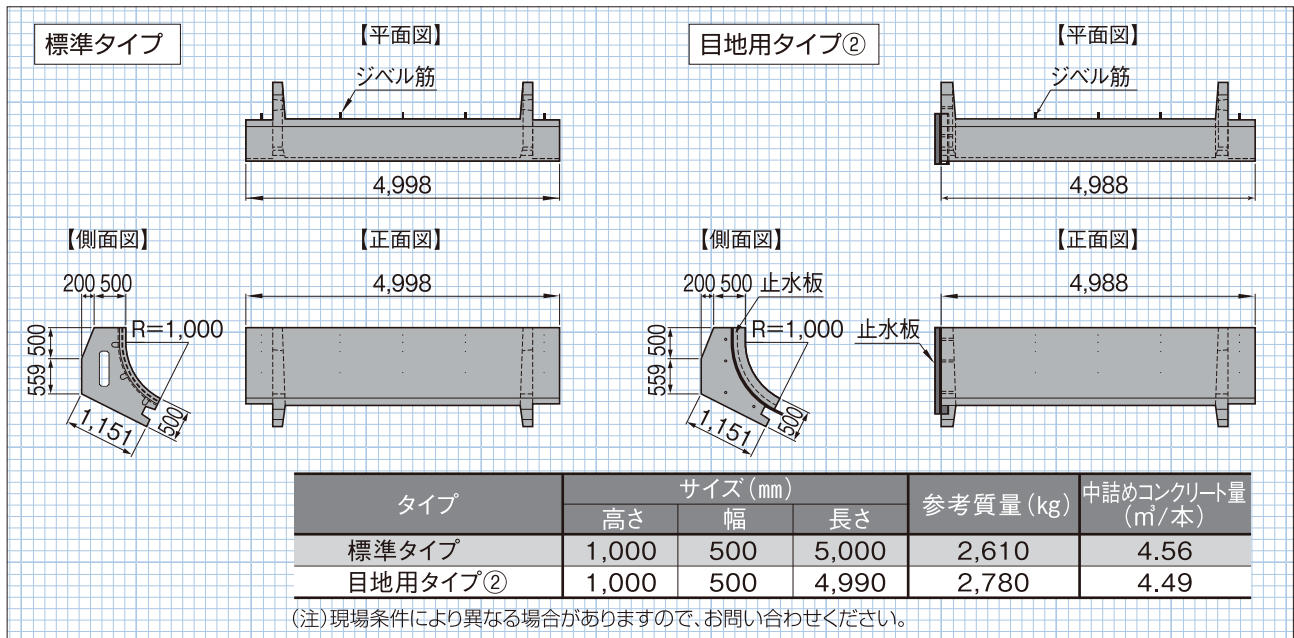
(注)現場条件により異なる場合がありますので、お問い合わせください。

プレキャスト高潮堤防護岸工法

■形状・寸法(コンクリート被覆ブロック)



■形状・寸法(波返し本体ブロック)



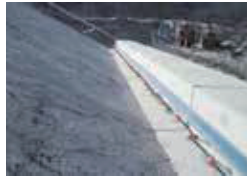
■ 施工手順



1. 波返しベースブロック設置



2. 止水板・タイバー設置



3. コンクリート打設



4. コンクリート被覆ブロック設置



5. 止水板セット



6. 目地材・スリップバー設置



7. コンクリート打設(1段毎)



8. 波返し本体ブロック及び鉄筋設置



9. 型組・コンクリート打設・完成

■ 施工例



【施工前】



【施工中】



【完成】

■ 布設歩掛り

波返し本体ブロック標準

(10m当り)

製品長 (m)		2.5	
下幅 (mm)		700以上 900未満	900以上 1,100未満
名称	規格	数量	
世話役(人)		0.4	0.5
特殊作業員(人)		0.5	0.6
普通作業員(人)		0.7	0.9
ラフテレーンクレーン運転(日)	ラフテレーンクレーン25t吊り	0.6	0.7
諸雑費率(%)		8(19)	11(25)

(注) 平成25年度国土交通省土木工事積算基準「護岸基礎ブロック工(1)」に準拠しています。

コンクリート被覆ブロック標準

(10m当り)

名称	規格	数量
世話役(人)		0.1
ブロック工(人)		0.2
特殊作業員(人)		0.1
普通作業員(人)		0.2
ラフテレーンクレーン運転(日)	ラフテレーンクレーン25t吊り	0.1
諸雑費率(%)		—

(注) 平成25年度国土交通省土木工事積算基準「コンクリートブロック張工 平ブロック」に準拠しています。

波返し本体ブロック標準

(10m当り)

名称	規格	数量
世話役(人)		0.2
特殊作業員(人)		0.2
普通作業員(人)		0.2
ラフテレーンクレーン運転(日)	ラフテレーンクレーン25t吊り	0.2
諸雑費率(%)		3.0

(注) 平成25年度国土交通省土木工事積算基準「護岸基礎ブロック工(2)」に準拠しています。